



明  
號  
卷

明治三六年  
十月廿一日  
講求

大日本米粟表袋

卷之第四

河内國

大坂十又敷田方二日余  
堤沼池井交今て種大信

石川

安福府 大徳

高安

淡田 交野

若江

志紀 丹北府 丹南

丹南

相原朝卿世以法已曾保理余為元河内國造 畢建

高木主水正心豊

本村又右方  
後村新方

此知行志方石

木村又方

今方也

おふん  
おふん  
おふん

右高木氏家系

河内國



源正次 主水正  
 正成 主水正  
 正弘 主水正  
 正盛 主水正  
 女子 脇坂市正室  
 正長 肥前守  
 正豊 大字

大井之氏家系 日向國  
 江戸方面世に里

渡邊之氏家系 基經  
 今井源三  
 渡邊之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源弘綱 盛綱  
 盛綱 半彦  
 重綱 半彦  
 治綱 半彦

兼綱 半彦  
 吉綱 丹後守  
 正經 越中守  
 基經 半彦

綱負 大隅守  
 行綱 半彦  
 直綱 安藝守

北條美濃守 美濃守  
 井出守

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系

源氏之氏家系 源氏  
 源氏之氏家系



千早城

教林寺

千早城

古伝七指石 其云知明時

全別山本堂あり十八町

山ノ下より乃方森在村此方より

下乃赤坂乃城ハ千早乃城より六十町

楠山成城山東乃より西六十町西

乃高三百廿又南乃高三百二十町

小乃高三百四十町を城長サ百六十町

轉より辰巳へあり城乃根より九百半

町あり一里や城あり一日に三石六

斗此乃城乃城ありとせしとせし

小楠乃城乃城ありとせしとせし

下赤坂城

甲丸坂

下赤坂城

小乃高サ六十間南ハ山つゞき城の長サ

南少武百四十三町横サ百三町あり

お乃赤川小坂乃石の寄居あり

と石とあり赤坂軍乃より

出合と云ハ徳園乃軍勢乃中ハ楠乃

勢三方より出合せしとせし

赤坂乃高

一之木

國丸城

楠山

女見山

上赤坂城

教尾

多越

水神社

左日神月神

多井乃

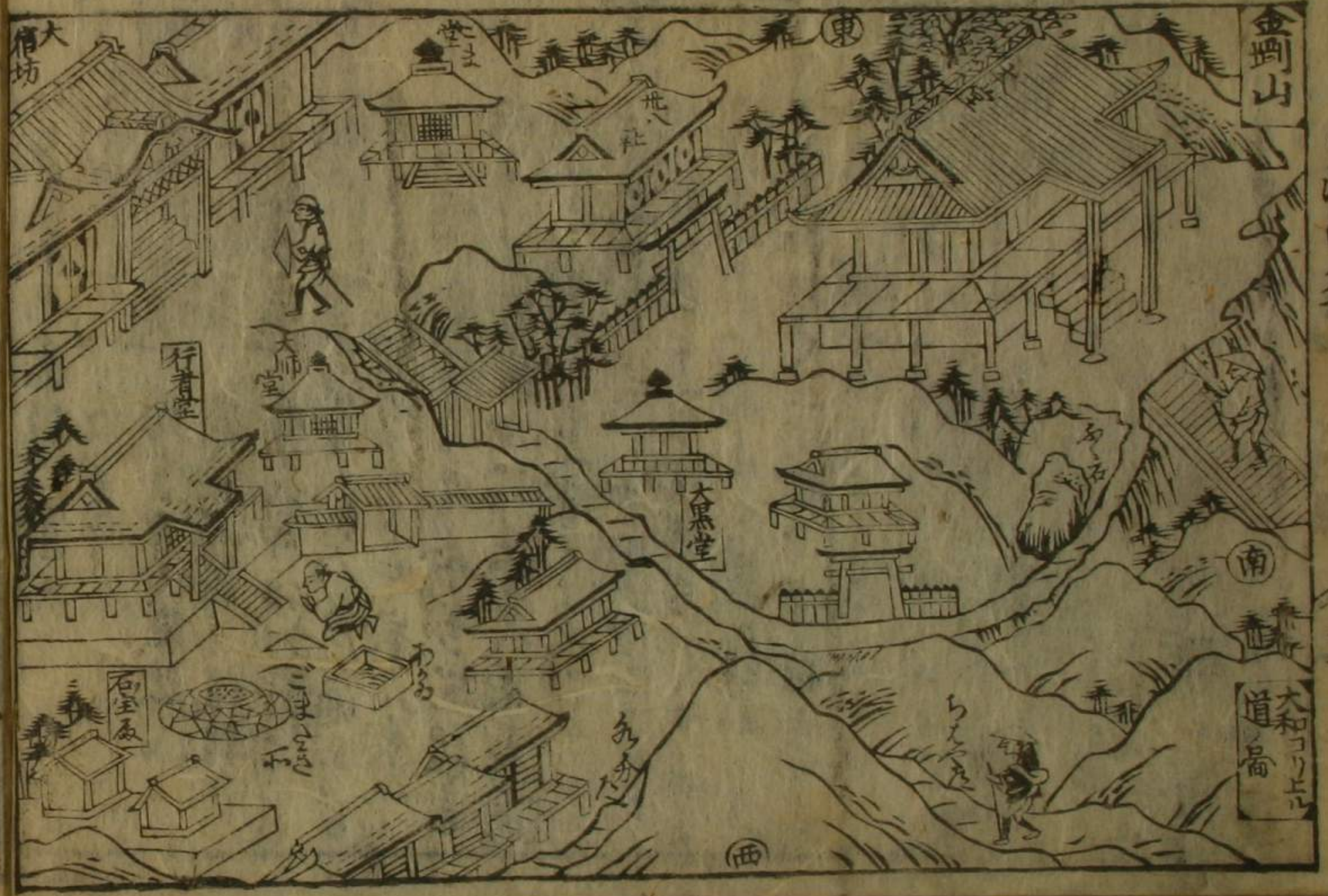
赤坂乃

赤坂乃

赤坂乃

赤坂乃















百田村 龍泉寺

古く藤城大長乃が創り

ひりくは乃池水魚給信く災とあり  
と大長公法興之乃整行と云く  
とありをけ池と法くち信とあり  
加祐一ものく具あとうじを流れ  
今もなると池大のちを沈中三橋を  
中堂兼師如來 牛以天まで  
を乃信坊と云う 樹門の二は法化  
又は下之終穴とくあり常の石の蓋  
とく懸日てり乃時敷と云く石の  
ふたのけぬれぬらぬらと云く

紅毛岩津園寺

かき十一面観音

富田村

梅之坊正観音 古く由他

高野井寺

十一面観音 長日の他

小別井寺

二面坊正信是地蔵在云

大伴影法師

古く赤糸川と大伴塚の

西条川

古く赤糸川と大伴塚の

白木村 観音寺

十一面観音 池長一尺あり

平石村 観音寺

十一面観音 平石の観音あり

法蓮寺

如加納村 一个下法蓮寺

宗より半のちを池のいりてとあり  
ぬらぬら 戸指家 高林家 吉田川  
いけくはれ下ハ梅川と云く

新福寺 龍泉寺

如加納村之 徳和天皇

乃池寺 龍泉寺

かき十一面観音 古く由他

石田村 山下寺

かき十一面観音 古く由他

大知村 観音寺

かき正観音の観音あり

下知村 観音寺

かき十一面観音あり

大知村 中世 龍泉寺

大知村の中世 龍泉寺 龍泉寺あり

一瀬村 天祥社

古くかき十一面観音

山根村 龍泉寺

大長公正観音 龍泉寺

宗寺 若尾村

かき十一面観音 橋の宗寺

弘川 龍泉寺

かき十一面観音 龍泉寺あり

乃池寺 天祥社

乃池寺の天祥社 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり

乃池寺 龍泉寺

乃池寺の龍泉寺 乃池寺あり







岩備寺

十一面観音 大所 一口二礼の由他

加賀田八幡 西村

香通寺 石小観音の梵字

珠美山登勢 数寺小住

十一面観音 太子の御衣

松崎屋村

石仏村 弘法の他とあり

三日月市

正観音 去天三寸他ふ知

無量の二葉の物 長尺九寸

上田小幡

何乃此り 鳥丸 賀賀又御

あ法寺

又志川 船乃八幡 志乃り

鬼燈 尾張

聖観音又一切経堂 弘法御

常楽寺 茶師 三三

古へ色履 多るそ云 弘法御

一宮 養正 依佐山

近奈古北寺 弘法御

師合寺 養珠山

如玄佛 観音 去天三寸

用基 八幡 弘法

天智天皇 弘法御

全胎寺 娘村

十一面観音 昔 弘法御

横山天祥

大石 弘法御 弘法御

伏見堂 観音 善心寺

十一面観音 弘法御 弘法御

伎方村 蓮花 心寺

如玄佛 観音 弘法御

綿糸村 観音 善心寺

十一面観音 弘法御

上原仲表 天皇 御所社

取原 石 檀石 善

西代村 雲田寺

十一面観音 去天三寸 弘法御

原村 冥光 山法 善寺

全仏 十一面観音 去天三寸

長登村 極樂寺

正観音 弘法御 弘法御

向聖村 家雲寺

正観音 安正 弘法御

市村 天祥 いざり 松

法隆寺 十一面観音 弘法御

南向日 瑞路寺

如玄堂 在像 三三 弘法御

小向日 慈眼寺

正観音 去天三寸 弘法御

牛久天 皇社

向社 七村 弘法御

西板村 瑞路 善心寺

如玄堂 在像 三三 弘法御

北山

地蔵堂 あり

丹南郡

神社 仏閣 所 四法

安樂寺 牛田

美原 小来 弘法御

横山 弘法御 弘法御

乃 業法 弘法御 弘法御

田 弘法御 弘法御

小 弘法御 弘法御

文六村 有 弘法御 弘法御

乃 弘法御 弘法御



原村大聖寺

本寺茶師也本寺云云

西村観音寺

十一面観音 本寺一尺三寸

大村律院

此村八上形あり

大保村

此村乃河田郷乃納り

天氏天皇陵

此山を茶師堂やうと云

河原村

首の河をさると号し十二坊

今井村大真山法云云

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

今井村大真山法云云

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云

聖中山法云云

此中坊今一坊を古法云云

河原城村

此中坊今一坊を古法云云

後井茶師

此中坊今一坊を古法云云









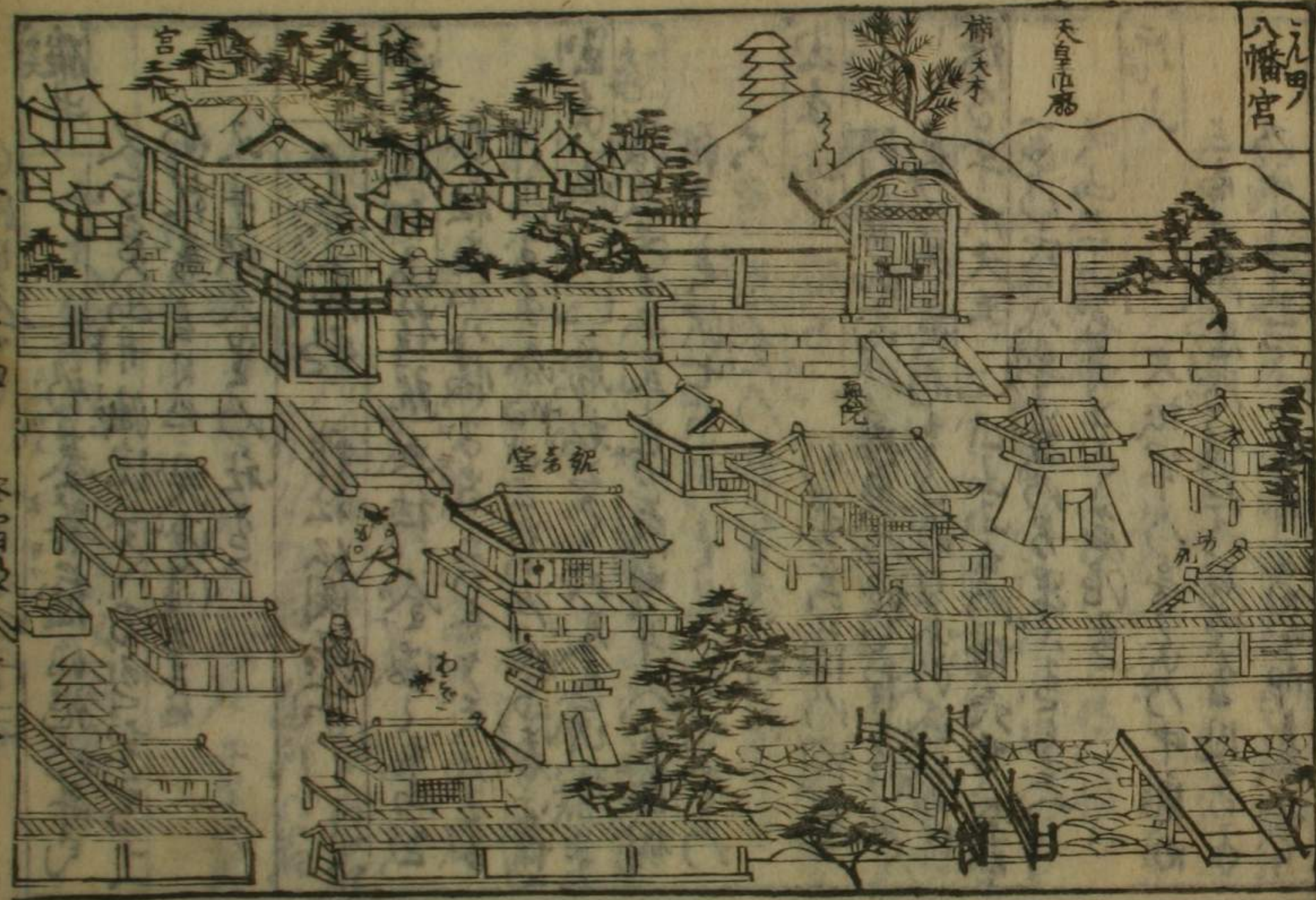


のりといふもそと石小約乃足死わり  
 又此約とつむをせりか格とく葉乃先  
 ふらりありといひ傳あり

八幡宮

社外二百石  
 別当 東院 西院

人王十六代應神天皇乃所廟之由陵の  
 長野山と号す人王世代欽明天皇の  
 七年小勅之八幡三下乃社壇と建  
 立せしとく之別當廟乃社とあり  
 ありせあり 本社ハ八幡文友ハ仲  
 衣天皇 右ハ神功皇后小く由産  
 古ハ天子教代乃章帝乃地あり  
 ありと外未社中しす今ハ社家  
 四人又神宮を神子五人ありと傳  
 國古云云宗廟院ハ夏蓮花とて  
 神宗ハ社傳十六坊と傳人乃舞臺  
 樂座あり又法皇ハ儀あり其寶  
 具油乃寺也縁起ハ公方養老云の由  
 傳あり四月八日ハ祭乃由神多  
 比月能と傳乃舞と傳年小くはる  
 八月十五日神樂出陣役人の舞あり  
 境内ハ則宮方社殿ハ木葉山米草





雁井

又心真山井 德院とて古く申す十一  
西祝喜美日他 興沙門 志子他  
又半天里乃社とて

安福郡 神社仏閣名所

赤羽村山社 社 金蔵と云山之

中社方ハ八幡子也 古ハ兵々夫ハ王子  
斤山玉子系の社ニ村ハ古の古喜美院

玉子山

後夜又主系年房 房屋回轉入心益相  
社下法派七石寺 主外秋味方乃  
大勢鬼毫乃共申すニ村記す

玉子山安福寺 仍基菩薩乃用基

野懐和尚乃再興乃境古古所  
具弘具資あまのあり 亦乃念仏地

後中半天王 斤山小去乃權穴廿 余  
一ツ乃穴ハ八幡後乃乃半ハとて

斤山

大坂軍乃奇女乃中興田  
三節志馬の忠勝村記乃石塔を同書  
乃中井上守系林子田守而系系

加助下也乃二河原保系外軍兵  
大勢は亦あそくお死を之と復新ハ社

教とてあそくす社ニ村地ハあそく  
と程死骸とてありと尸傳ハ傳り

斤山首の伽藍乃法塔乃燈台とて  
古ハ乃伽藍下系山と新

系山

そく大志とてけり云傳ハ傳り  
又下村傳 系分乃効り号乃乃云

田島村表日大野社 又表處ニ編禰社と  
系分村記書也 心祝善金弘 弘法也

系川

河中小系石とて系河の  
大石を凡てけし亦四十八乃系大石とて  
あそく一系乃付傳り 雲石ハ社也

乃白岩の志乃岩 小系岩 扇岩  
蓮系岩 系岩 系岩 佛岩

系岩若 屏風岩 系岩 のぞり岩  
かゝる系 系乃乃岩 系乃乃岩

々々乃剛 々々乃剛 大系岩 系天若  
系外志乃乃云云

大徳郡 神社仏閣名所



青谷

中山光蓮寺八宗乃行所

八大金剛蓮子乃社也

多井田仙道乃四法

今云龍若小堂小宮

白坂大河津社別名  
任吉乃社勢のり小十日よりありと  
之は垣より隔りての復吉と云くわは冠  
對ありと云り是里人のよりと云

安堂村仙道四法

今大目小堂小宮

太平古仙道四法

太子乃仙道三あり

宛永六里人本堂乃無中々金像乃  
如云龍親善と雖も小堂小宮あり

照曜山光蓮寺

尾松若光蓮寺

在云り人五六十代無融院乃仙道三  
あり東光山照曜峯と云りわは  
乃四法と安貞二年乃法三井ち此碑を  
後承傳於志を乃具沙門乃具友と  
云り後垣川院へ貴中と云り一  
塔造りて照曜山光蓮寺と云り  
後承傳於志と云り終小龍宮と云り  
中子と云り此松若會松若會と云り  
乃り是處ち此光蓮と云り中子何  
融院の仙道法中乃由安堂松若會

キ所乃他と云く女人平産乃奇物  
あり一處と由來を云く此中龍系融院の  
亦龍用祖乃高僧あり此乃福  
井と云く名井と云く 松若會照曜院の  
社あり實あり四十八の竹と云く傳  
來せりといふにあり一子安乃  
地産三本乃長十三寸乃石の塔若  
く乃具然と云く觀音山と安堂村へ  
出ればと云く此乃名に何なりと云く  
乃名石と云く

大橋村美日神社

大友と云く四法あり

尾松若小堂

今大目小堂小宮

清寧天皇陵

平の山月坂門系後と云り

平野村十一面觀音

乃基乃他松若會

山乃界の業所

乃基乃他松若會

▲若江郡

神社仏閣名所

橋邊 亦う前乃日

橋邊乃四法あり

八尾小堂

八尾小堂小宮

尾羽八枚と云く



小宮りきく 鴨川 八尾村の尾と八尾  
と云ふ本と八尾本と云ふあり

林右院殿吉野素備公の所と云ふ  
是より世多しと八尾の尾と云ふあり

是より世多しと云ふあり  
乃中記ふらぬ所なり 林右院  
殿より世多しと云ふあり 八尾の尾と云ふあり

と云ふ是より神妙むの本のちと云ふあり  
八尾本不動屋敷 八尾本と云ふ松嶺

あけ川 八尾本との河内八尾本の川  
西へ流るるなりあけ川と云ふ川と云ふ

八尾地蔵 初日山常光寺と号す  
首領の小野重隆の地蔵縁起畧と云ふ

成法寺 東郷村あり  
石乃寺地蔵 八尾表大坂軍六月合戦乃軍士  
討死乃場所あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり

八尾村 八尾村あり 八尾と云ふ  
穴守村 穴守村あり



進理の松 松原庄同西天の神あり

仲養天皇大山陵 此後志を教ふあり

永在山なる古の松村 本西古の末流を伝ふ

十一面観音 三巻村 善日の化也云々守

龍破村 大降ふ龍とてびつ僧ち名

蝶野古村観音堂 昔乃四條をのこし

天見山社 枯木村 松におまると云あり

中ノ半次天皇 元善日大降神 西戒美

元七村乃氏神 又乃基大士居候のあり

油上村系神 又神村云 油尺一尺寸石松

義服古 後乃村にあり 中善心観音

又木徳心観音 油去一尺寸守世徳観とあり

塚本松 布志二塩之 泉列伝田の松の女河

支那の松乃名あり

布志 ぬの米と云あり 七村を昔の大伽藍

一布より及阿院の思海門天文池村

布志山永興古十一面観音白井村あり

新基、他山長四寸分 布志山永興古十一

一面観音 本村本善度持松之由あり

布志川 後乃の夜白龍塔あり

惟畧天皇山陵 鴻白松村之儀云云

何保親王の四照 親王、年歳天皇乃の御子

子、其年平約長乃文ありは不保候

の、友不乃名と何保村と云何

保東何保と云二村を、義徳り、

後乃の、不今亦何保不四條あり

親王池 大なる池あり今ハ四條池と

いり何乃池ありあつ池はあつら

池の多し親かゆくとひく池中小

女又居れとてとととととととととと

とととととととととととととととと

何保親王の山窟 大塚と云山あり

中村親善堂庭敷 芝草の丈ありと云

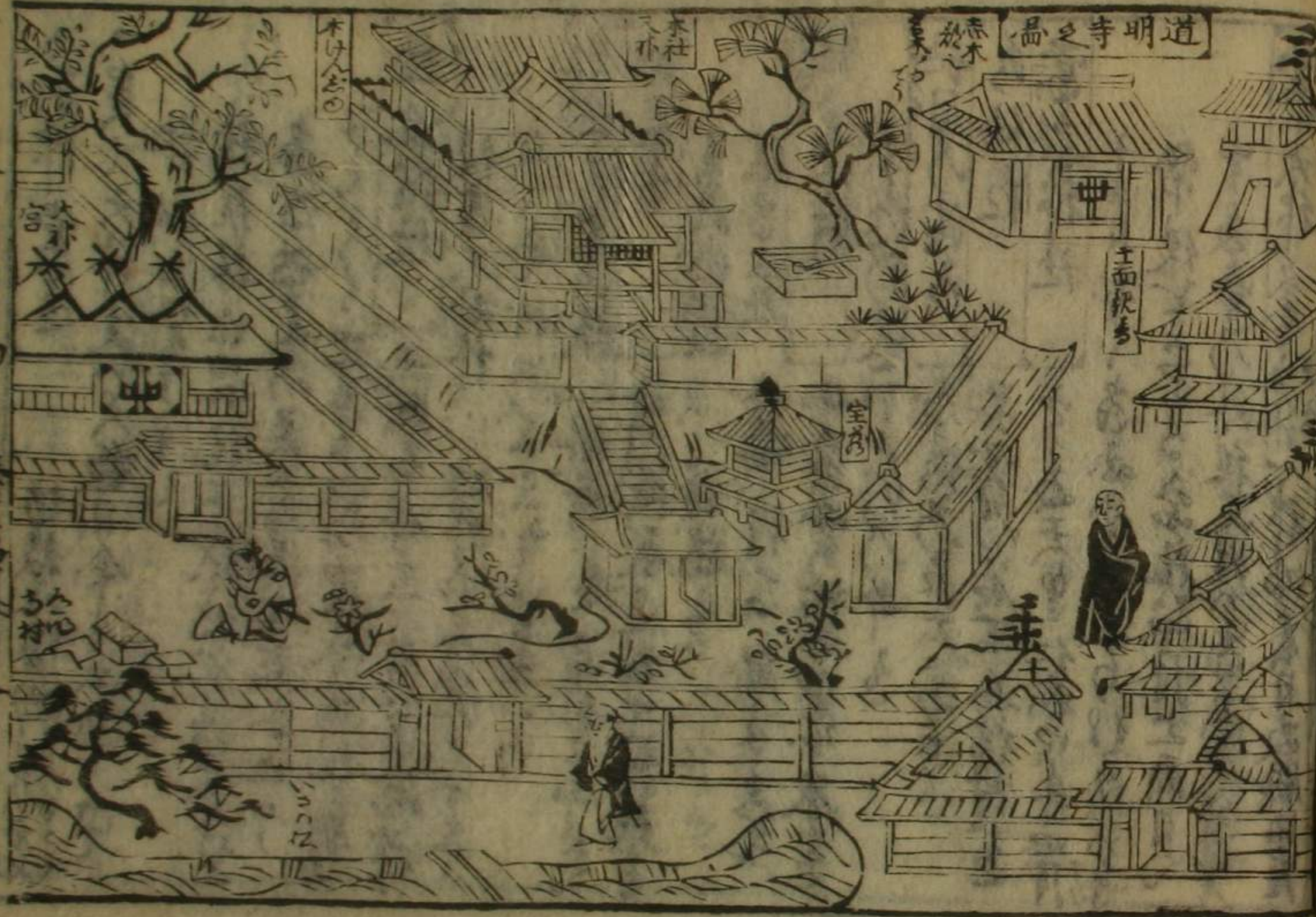
何と云今ハ小堂ニ入る石松心観音

▲志事那 神社御園所

仲養天皇大山陵 次田松あり

道明寺 古殿百七接石 今御園所あり





概て天皇乃成教を聖徳太子の御基  
 たり云降連八幡宮よりく松隈とあり  
 け而て大降乃里とあり又終乃大宮終  
 と櫻め多のく上小本徳樹を信りとの  
 矣とくつとてそ人々救珠ふつめく  
 け連ハ我約ふとめく今松とくみ  
 出くつ人しそ終くふかして居邦と  
 終り一聖天小池でくくや  
 けさ小養悪わ乃物母所免考とり  
 ありまけり養悪おた迂乃山時  
 赤藤元不きくせ多の赤のくく  
 赤物くつとくく小赤雲乃兼く  
 まくくくく  
 明社別といそげも教書の中く教書の境もか  
 巴條く多のくくくくくけ里小の難とり  
 けとくくくくくくくくくくくく  
 多り村上天皇天皇元元年小養悪と  
 教小野子ふく小池とくくくくく  
 多下同年小池小池のくくくくく  
 森乃内小池社とくそた小松梅と極  
 て天後大自聖天祥とくあめあなり  
 一本堂十一面観音のくくくく天祥乃池化

四  
 志  
 録







天津兜屋振命之裔孫也  
河内玉鳳船大由神口中長船長取  
船長乃遠祖なり 木下林系系

神階 貞観元年正月廿七日正二位勳  
六等息地大津合津美津神坂二位  
小夫七社又八幡乃社是ハ興乃山を

厄川山神又子女親善今一坊を  
古城山 及知友を石監正を居  
城の地は友を乃塚小塚乃大木  
振るなり九本不記

恒内 昔業平多安乃女り  
色のみ多りけきまを立寄りとも  
去りて文中中宿のうさうりともいふ

教興寺慈心院 古ハ七堂大伽藍  
法回二年日下及びり住く去乱小焼  
威しく今修ふ一坊となし子安  
泉善乃一記とあり終り終り終り

天乃社 奉務あり正月七日六月七  
月は友日ハ縁日なりと詳し多  
服新川千塚 山上ハ立石をふりてハ  
千塚あり大石をく塚穴と振る

長河也 昔向江ありてハ千塚  
是ハ上古ハ時無中と極なり 岩穴  
と云ふ或ハ乃女と云ふハ 洞窟大  
と云ふともありたり 終り終り

山畑村 昔乃佐健光を去る乃法  
そくそく又 後塚と云ふは  
大窪村 山とと道ハ載とより業  
平と云ふハ 女とと道ハ中とあり

古塚 古源神光乃長長後多  
絶が切地なり 尾乃ととたなり  
久ノ一 夜風とけやありと云げま  
が終り地不切りともありたり

十三載 山上ニ塚十三基あり  
多安里 教乃名ありて又一の石  
夫も安乃福りありハ時を是論乃山と云ふ

神遊村 古祖大由神 多安由神  
介文社由度中ハ天照古神在ハ後吉  
帳兜 友ハ春日 盛之 威徳山死光

古安里 古安里 古安里 古安里  
古安里 古安里 古安里 古安里  
古安里 古安里 古安里 古安里











中より別より後よりとつて作  
と云ありのせりありと神武本紀ニ  
ときき是山城名不推森不記せり  
▲本邑の神武古六坊を海あり  
其浦乃末速古十一兩額焉そ一五寸  
八寸古葉柳如木 長五尺

▲地蔵院字安地蔵 乃基の内他長四尺  
園止所 大和町内乃場清年解

▲尾九ヶ嶽 へかきまるといふより大和名おもせ出せり  
くぐり峰より十町程あり

▲尾九ヶ嶽 大和町内つとむりより大和  
尾九ヶ嶽より出せり彼乃基にありと云  
二神とらへて其基と名付めり  
ふひありと云嶽と自らいせり  
そのの尾九ヶ嶽乃基と云嶽切也と云  
▲其乃親善 彼乃基乃園基古なる自  
彼氏乃神揚杖杖又作かきと云

▲其乃親善 其乃親善乃基他光善の  
子中乃親善より上乃親善と云  
茶屋ありあり其乃親善の園基古なる自  
尾乃親善より上乃親善と云切也と云

▲其乃親善 其乃親善乃基他光善の  
子中乃親善より上乃親善と云  
茶屋ありあり其乃親善の園基古なる自  
尾乃親善より上乃親善と云切也と云

▲川田 森 系とあり其木 五伸  
久方の本堂ありと云これ河内郡の産也と云

▲優良郡 神社松園名不

▲松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自  
松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自

▲松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自  
松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自

▲松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自  
松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自

▲松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自  
松園山 松園山 本堂あり其乃親善乃基古なる自







岩船山 船山あり 八分計乃岩船山乃嶺

神子乃窟寺 六月晦日 齋堂 齋堂 齋堂 齋堂

皇乃由勅 齋堂 齋堂 齋堂 齋堂

光教 齋堂 齋堂 齋堂 齋堂

大念仏宗乃本多乃け松

野村妙善山傳福寺 正親善乃基也

海尾山 龍善石 山名也 正親善

三女坂 龍善石 山名也 正親善

乃岩氏 龍善石 山名也 正親善

船橋川 古へ大橋あり 山川乃早

赤乃わも 龍善石 山名也 正親善

田一安樂寺 千一西親善 慶長

後及山 龍善石 山名也 正親善

新古今 龍善石 山名也 正親善

松山 龍善石 山名也 正親善

長尾山 龍善石 山名也 正親善

波多山 龍善石 山名也 正親善

天川 龍善石 山名也 正親善

作川 龍善石 山名也 正親善

龍善石 山名也 正親善

龍善石 山名也 正親善

龍善石 山名也 正親善

龍善石 山名也 正親善



禁野

惟喬皇子は野小の持の付

金多乃三足乃継子出、りは亦禁野と九部礼あり、只佳者乃天子此持備乃野、禁野と云く、

禁野和田古某原

古子此他、和田新屋、

中支村西方古

正親高、新基、

西海王宮

廣松系、乃、

田代、年代記、日百派、王子、来、一、聖、

交野

交野、此野、と、云、り、

古

古性乃天子此持備乃此持備、

新見山

乃、集、

波濤 法院

古、乃、中、乃、

昔、惟、喬、親、王、法、院、乃、持、

此、之、也、

乃、之、也、

潜院 親高古

十一、西、親、高、

長徳寺 古

西、親、高、

共良父村 親高古

西、親、高、

一宮 牛天

西、親、高、

楠系里

地、産、

楠系里 親高古

西、親、高、

秋加堂 金格 赤梅 檀

立、徳、

金格

山、成、河、内、

成、之、功、

茨田 新 社 佛 綱 石 所

社、佛、綱、石、所、

本蔵寺 三井村

乃、本、

本、真、寺、

乃、三、井、

法雲山 新 光 古

中、根、村、

延命山 光 古

日、村、

玉田 横 聖

延、命、山、











百城王子乃娘乃塚 いく藤乃ちん  
る又官女乃塚いしく藤乃赤はる

▲淡川郡 神社仏閣名所

下之太子操樹山勝軍寺

又取成統もた云佳首の堂信大伽  
藍中くまうが時代をさるる交り乃  
会史小笑うして今二寺乃堂にち  
子十六奉乃髪毛とゆくゆらに植  
まむの亦自他乃の教ますすす所  
秘佛うして用信まれの植植髪乃  
ちみとゆく又右寺具仏經中を備  
舍利種く乃具冥抄りいさ寺の  
太子も屋と我多の亦まけ三交小  
及ひ山命あやうり一樹操大木の  
ふか小直力とかり虎口とのれ  
まむ多のぬ交母乃軍おちを大ふ  
まけとかり矢小あうりて終小結り  
太子始終乃直勝とぬく直志取の大  
らととしく遊あつる河北信乃樹木  
ありとと大直力とかり一操の木  
乃意のすめ小伽藍と建立り終り

枝木八胎母のこく小名直母木と名弱

方松山長観寺 毒井村十二西観音 南縁多木

淡川村 淡川観音く淡川村を

久良寺又村の若大十二面観音乃寺号之  
堂と建立りく安堂一まれり  
久良寺村殿院寺 西中観音乃直堂之  
田基の法印大和五位連源之親鸞  
聖人より八代連如上人育八乃子之母の  
石山観音乃伝乃りるの極光より寺

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝

巖他村 太子乃亦河百餘本の伝



△河内名物出所

揚梅 石川郡あり 標 後羽郡あり 平野物 平野郡あり  
 引飯 及ゆるしあり 毛刺 毛刺郡あり 烏萃 烏萃郡あり  
 干瓢 小角豆 蓮根 蓮根郡あり  
 鱈皮 鱈頭 鱈子 鱈子郡あり  
 久交 木綿 金剛 木槌子  
 白炭 横山あり 木槌子 木槌子郡あり  
 教珠 不用

右河内國分記

本國花分集 卷之第五

△五畿内 六ヶ國

和泉國 泉別

下段三郡南水百餘  
 里山あり海とつて  
 板敷穀津原あり  
 國廣きく和泉國と  
 同敷四千里あり

大高 和泉 目根 九三郡

和行高松三方八千七百九十石

和泉國の河内國也 元正天皇是年  
 割て吉野縣と和泉國と  
 同二年四月河内國大高目根和泉三郡  
 割て和泉國と置り 和泉國史

岸和田當津城 和泉國

和泉國 和泉郡 守宣統

和泉國史 和泉郡史 和泉郡志







柳澤出守保明 品七方二千世若

尚德為前出守後武列川部 似此居  
武列川部 武列川部

堀政隆

天野傳守印教

正和十式百石

与力六騎  
同心廿人

御与力

金持刑了左今上條他之右

松原源左右

伊豆多良守算十保之右

与力仲友右

堀新守人叔付

堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

伴母源左右

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

右十一人

平判前

海部源宗貞

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

具足源宗清

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守

堀新守 堀新守



柳屋 越来

何知子 古来

茶屋 古来

小石 古来

石田屋 古来

和屋 古来

茶屋 古来

小石 古来

茶屋 古来

八丈 古来

何母屋 古来

何屋 古来

常屋 古来

藤河屋 古来

赤屋 古来

柳屋 古来

言屋 古来

赤屋 古来

松竹 古来

小刀屋 古来

布屋 古来

才屋 古来

茶屋 古来

八丈 古来

神屋 古来

草屋 古来

横屋 古来

八尾 古来

茶屋 古来

近年遠入

朱屋 古来

西 古来

具屋 古来

茶屋 古来

銀屋 古来

草屋 古来

伴屋 古来

具屋 古来

布屋 古来

大和屋 古来

西 古来

言屋 古来

赤屋 古来

茶屋 古来

小石 古来

柳屋 古来

緋屋 古来

日屋 古来

何屋 古来

斗屋 古来

言屋 古来

日屋 古来

月屋 古来

大和屋 古来

柳屋 古来

紅粉屋 古来

和屋 古来

河屋 古来

伴屋 古来

渡屋 古来

月屋 古来

斗屋 古来

伴屋 古来

西 古来

針屋 古来

墨屋 古来

指屋 古来

八丈 古来

紙屋 古来

平屋 古来

茶屋 古来



茶屋尾治左衛門

住勢越玄悦

小山 新右衛門

平割村 合百武指人

越年寄 指人

白糸割村 櫻之介 百廿九也

空丸 山最所方 百丸 並系中 百丸 江戸

百丸 長崎 卒丸 大坂 百廿九 堺

廿九 射弓 十九 半 龍前 十九 肥前 聖

六丸 肥前 佐賀 六丸 龍後 一丸 末 小倉

越合五百八拾武丸

古来仕官

三好左衛門

十河民部左衛門 一好

三好 左衛門 三好 隆程 左衛門 長慶 命  
小信 三好 隆程 左衛門 長慶 命  
内乃 政長 三好 隆程 左衛門 長慶 命  
と 三好 隆程 左衛門 長慶 命  
二月 小信 三好 隆程 左衛門 長慶 命  
て 三好 隆程 左衛門 長慶 命

松井 友因 三好 隆程 左衛門 長慶 命

野山 三好 隆程 左衛門 長慶 命

松山新助

永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命

松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命  
松山 新助 永禄 年中 小三好 隆程 左衛門 長慶 命

小西如信

天正 年中 乃 小西 如信

小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信  
小西 如信 天正 年中 乃 小西 如信



て如清とあり

▲小西橋津守乃長 小西如清が眞男  
なり右岡へ小姓に仕出熟切なり橋津  
守とあり肥後國と存候て守土  
乃誠主とあり

▲本戸他太妻 小西橋津守乃  
敬来たり嘉藤陣小太極とあり友  
及み及候とあり是處より子孫  
今も高津小橋守とあり

▲右ノ教軍ハ三品唄ノ様ニありて  
旧居陸奥ニ遷セしとあり又此も  
書おけり今も此にありとあり

▲泉列 國中神社

大鳥神社

大鳥部小鳥

一宮記小云 日本武尊高天原より高天原  
一宮とあり 一宮高天原云昔白鳳  
飛来くは処ふるも天照を捧乃何  
多ふ之故小大鳥とあり 神社記  
貞観元年正月廿七日後四位下  
神社記  
▲社記 松乃人の心とありて社  
く又松も社記とあり社松小松松

松乃人の心松乃人の心松乃人の心  
松乃人の心松乃人の心松乃人の心  
松乃人の心松乃人の心松乃人の心

蟻通社

和泉郡三宅系社

青末律何村世也 廣野村 社記  
橋七曲玉環上下内通且若云以泥貫  
以玉環人不家所爲子時有中若某  
取蟻也細糸之腰以蜜津環孔口  
入蟻之聞密香遂得通入而此於  
以其系所貫玉環還平度之人  
本國へ其貫哉遂不肯及我  
進至大長位記而爲社有人信  
告云 ありては曲玉乃とあり

ありては曲玉乃とあり  
紀勢之紀列より橋乃時は不吉なる病  
とありんとも病人食く云い不吉  
寸許乃聖也ありありとあり  
け不社あり云ありありとあり  
又幣帛多し用く多氏流の院  
とあり云蟻通社ありとあり  
て蟻通社あり かしらありあり  
ら大産小ありありとあり























鬼道をよみ乃陵墓を仁徳帝乃中興  
鬼乃雅部子多路非を天皇に譲り  
路山山城國鬼道をよみ乃地小のり  
自ら死す多しを所あらはれ小奔を乃  
と中他人ゆり或は後を推す天皇乃  
陵をとり或はゆりてくさるるなり  
武内宿禰墓 大仙陵より神あり三  
國山より平来乃方し世人長城山と云  
武内宿禰天皇より意神天皇より  
六朝小住より長なり

▲泉列塚古跡

定と云い開口村木戸村の山を白  
井領村中宿村原村 二村是と云  
九艘小舟 九舟松 西征神軍此故傳  
乃由河出船九艘少くは淡浦小あがせ  
か小舟船と云所乃松九舟小つあがせ  
不と船乃松と云り船乃乃向入友の居  
今廻蓮社乃因徳寺七社の外小別と  
九舟松の神を云一社神ひまるとは  
石宿院乃色と云九艘小舟と云  
神乃松村乃南不表宿

飯匙塚

乃形乃飯匙小形乃飯匙寺乃神の  
干珠を新と云小形乃飯匙寺乃神の  
表す干珠の飯匙廻廊乃形乃飯匙寺  
と云地小形乃飯匙寺乃神の  
乃形乃飯匙寺乃神の  
小形乃飯匙寺乃神の  
と云地小形乃飯匙寺乃神の

水田植勅所

例年恒古水田六月廿  
八月小高水田乃為女高りて植勅  
る多恒例なりも備は是候ありと  
或後より飯匙寺

七度溪

或は七度溪と云是乃い  
七度溪乃流と云は乃い又七度  
乃流乃流乃流乃流乃流乃流乃流  
浦へわたり多し乃七乃小乃流乃流  
乃流乃流乃流乃流乃流乃流乃流  
乃流乃流乃流乃流乃流乃流乃流



脚上へまの志波ふひりく 塩垢難と  
 七度修り成りし事、まゝ又は換ふく  
 七月八日小踊大会佛わりの河内必平時  
 乃大会依り流かきと上人書成りし所  
 乃三昧ふれとそとどか佛作てを  
 久へ一切聖具法界を縁のよめ小踊会  
 佛丸行わり

高野堂

高野堂 高野山に大師の流乳  
 乃てまゝ高野山に流乳乃て後とす  
 乃て世人とれと高野堂と名つゝとん

将軍塚

将軍塚 塚穴乃と名おの塩穴堂  
 乃りおのまの飲着勢成乃てあまの能る  
 乃て海中よりあつせり入りて、堀が  
 藤原公と名付と、まゝとてあまの

朴津里

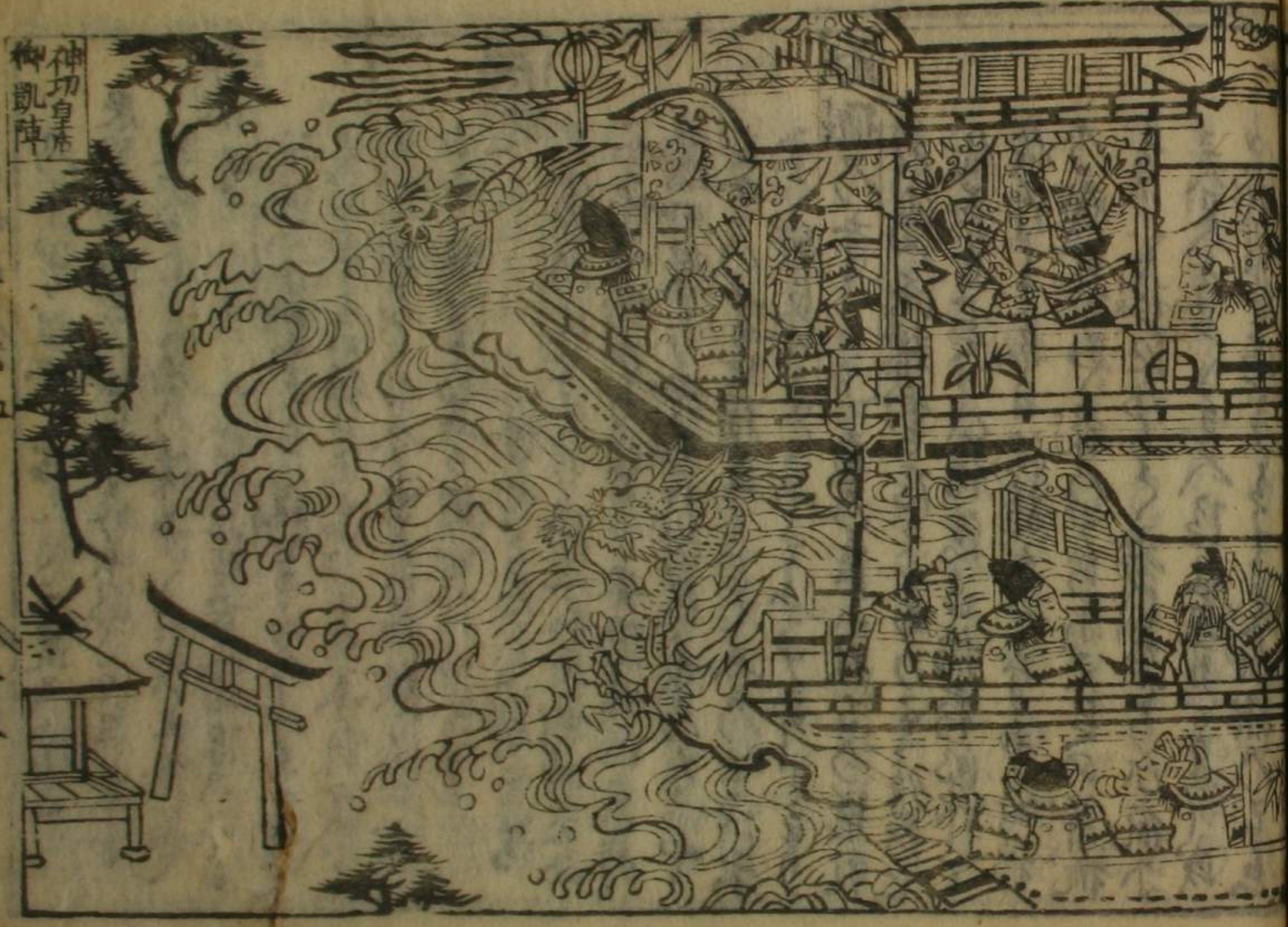
朴津里 採列し名お後者小なり  
 乃て記す奇も出せりは所いおの橋本の燈  
 乃てとておのつゝとての事

玉換節

玉換節 高野山乃内利津唐乃  
 乃てつゝ高野山とてりてとて名お  
 乃て高野山の事とておの月の事  
 乃て高野山の事とておの月の事

立野

立野 高野山乃内利津唐乃  
 乃てつゝ高野山とてりてとて名お  
 乃て高野山の事とておの月の事  
 乃て高野山の事とておの月の事



神功皇太后御凱陣



乃个の祖母の懐くと云流るる白所  
泉の境乃酒乃産之聖に美のりる此蔵の  
祖父よりこの境乃津中く田所の三味の内  
母所町 性古小佐吉の成守乃内馬  
と云はれ小櫻のさく珠と云ふ人一灰乃居  
と云りえの根口と云りしと今日口町と  
云ふる名るとも今おのり後ういひ所  
ゆき林と云ふ例とつとひん

母所町

市町と陽倉乃町との事

大小橋乃辻と云りいけ辻和泉橋津波正  
分地乃境なりびり安陸晴の泉列  
隊田村より境ぶれ河は来乃るや  
長方乃書と埋まうて今乃世ふい  
まくと辻長坂さく小さふりゆり

乃乃寺

南乃庄小林乃塔

永徳乃法耕雲居と云わりを住僧と  
伯菴主と云りい信法も福初め林と  
住作して毎日法施意てすわりの林  
乃感意りや森乃うり小三足の野  
乃と抱はゆりて雲をせりい狐小  
天又ささく主人住はれ月と身し或  
ハ戒律と追りるる一を狐孫乃と云

もくれが世と云ふれと今乃のり  
ち内小とあり世につく乃狐吼紫乃  
根云と云いひまより起さるるゆくと  
そは大差何りい根云小依りて夜狐  
根云と云いひまより起さるるゆくと  
乃骨腫動と云い口傳せしと云成り  
根云結終おぐり乃小まいぬればわ  
と云くもささくやわあ乃太さしと  
と云根云あり

境風呂

泉乃名風呂は堺大町の

西六折筋ふる外ち町乃名と境風呂  
町といり古の基の所は乃海邊  
の一番とかり系所如来乃石仏と井の  
中におさめと胸中よりまき出り泉  
乃系乃と汲えて風呂なると云り物  
凡ふれさるるやい屋敷主と公方  
屋敷と云り境の文書二年三月  
云日乃境天小多門天乃山香小井  
在あ乃月あさか退轉と云い  
ち物と云いしと新と云い其後と云  
道り依りて想蓮社と云いち内小  
泉の信と建立し大所一乃三礼乃名門



一と安五寺より井の旭蓮社乃吉  
衆とゆり龍窟末は其不測乃吉  
由名ゆり龍窟末は其不測乃吉  
俗うすゆり龍窟末は其不測乃吉  
終りゆり龍窟末は其不測乃吉

市戎 井大黒町 石像乃夷也

弘法大師乃幼徳へ市町乃成ると  
崇まをねりゆり龍窟末は其不測乃吉  
ゆり 又大黒町とて是も大師大黒  
天と幼徳ゆり龍窟末は其不測乃吉

白井 白井乃井 白泉乃乃

能乃三時乃小なる基がゆり龍窟末は其不測乃吉  
小河ゆり龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
く平念とゆり龍窟末は其不測乃吉

海會寺 井 白井乃大古門

首海会寺乃用山乾峯知尚へ終り一  
龍窟末は其不測乃吉  
と龍窟末は其不測乃吉  
と龍窟末は其不測乃吉  
中乃乃龍窟末は其不測乃吉

らう龍窟末は其不測乃吉  
俗小龍窟末は其不測乃吉  
ちれ内小龍窟末は其不測乃吉  
小龍窟末は其不測乃吉

龍井 白井乃文ゆれ

三節と云へり傳り完承乃一白泉  
可福ちれ龍窟末は其不測乃吉  
ちり龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
用あおせり龍窟末は其不測乃吉

小乃店町乃

と云龍窟末は其不測乃吉  
子乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉

と云龍窟末は其不測乃吉  
二乃と云龍窟末は其不測乃吉  
又中井ト云龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉

白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉  
白井乃乃龍窟末は其不測乃吉















首截地蔵

首截地蔵乃石像なり其土  
其首乃他あり其の首無き上乃傳ふ  
此堂乃内ありて其の首無き奇怪あり  
ある事乃人々といふことありて此土  
に首截地蔵ありて其の首無き地蔵と云  
それより石像と云ふ今亦首截地蔵と云  
傳へりて其の首無き地蔵ありて其の首  
ありて其の首無き地蔵と云ふことあり

唱染収納の儀

助左衛門と云町人天正乃初夏小琉球  
より即染へ取り交縁二年七月小琉球  
のりも所ありて乃代官石田康工以  
云義志と云秀吉と云上奏す今年捕焼  
干飯治府時香二足上より由礼中上即  
指末乃云意六十月月ありて乃由礼  
頃ありてありて乃由礼ありて乃由礼  
云云云干飯治府時香二足上より由礼中上即  
と云代官の礼と云一ある事ありて  
ゆくも云と云と云と云と云と云と云  
乃人々代官に但せ六日其程に云々  
雲々云々今云云云云云云云云云云  
上られと云云云云云云云云云云

皇子が上ノ首切地蔵



納屋助左衛門呂宋ヨリ歸朝





日乃中小そとつく乃漁人とおれり

▲寺観 凡塚ラキニ記セリ

其處山文經古旭蓮社

古殿宇石

南約才二主後村上天皇乃建三圃山  
智系上人之遺業志と信ふ小なり  
彩小入く廬山蓮社乃宗脈と信風  
吸名乃ら旭蓮社と興起と書し古物  
社号乃権樂り上人立世後廣く延音  
天皇慈慕し所り後号しとく  
大系其後蓮社と号す後多致しとく  
又阿弥陀經と願と信りり上人本願  
毎安六年壬子七月廿七日のたす失  
多のぬ門院を日成とて忌母とす  
権樂料四十石山古殿小なり古石木  
中殿割りり是念仏長行乃乃乃場と  
縁古七社此并 又権風呂乃乃乃  
前小石寺

三圃山向泉寺

古殿九十石

聖武天皇乃勅於開基乃乃基堂  
かる千石記善然古祇園并願天  
王なり建立乃小何伽井と稱て  
清泉とゆり板小向泉寺と号公寺  
泉河橋乃乃乃小橋小板小三圃山と  
稱す別乃乃遍照光院と号す後小  
三圃橋比乃伽園と称す年中小古  
火小何伽井と院滅立に即りて後寺  
門と稱乃乃乃小板すびり乃乃乃乃  
物等今院廢絶とり秀吉公乃乃乃乃  
封田九十石と編小此古代小板乃乃乃  
朱中教割たり

法華山悲田院

古願八十石

又照田院と稱せり

後奈良院天文年中建三圃基堂  
龍上人燈之源氏に列傳と本乃乃乃乃  
中乃河弥院如來惠心乃乃乃乃乃  
慈聖院現乃其愛小由く古寺乃  
別号と乃乃乃乃乃乃又上人市乃  
物く乞食と乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
悲田院と乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
此古代西乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
法中教乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃  
法華山極樂寺

法華山極樂寺

古殿廿石











新編一々今公陸の七とてわく一卿と  
陸那也ししまに卯毛おゆて成を  
つして伽藍七堂并ふ四十二院と建立  
し其堂と安五一秋阿比と位  
とく入仏供養と云のり阿比原  
と号ませり別新堂精舎と云物  
定山引接ちと宣下すは又新  
上人の別と蓋り多り社務方國夏  
外也と別と中承小寺附して其地を  
おし後醍醐天皇五ノ勝軍地を和  
符して徳也と云一ひ別が社小僧を  
住言乃揚社とあり又云承平のり不  
自計外と更修して其地乃福とあり  
其又まに山寺精舎の附其地を  
築ちと云阿と改名し及ん其地  
修りまにわたり其地乃福とあり  
縁なり其地二年乃初冬に海陽四余  
乃福乃末もと改名小島と云四余  
已修修せりち候十石三計其地乃末  
命り

經王寺

古殿廿六石  
應永年中建立

用山月燈上人海陽妙光寺乃末也  
古殿其地乃末也

顯古寺

古殿廿七石

古山門院文の十三年奉世小建立なり  
用山月燈上人海陽妙光寺乃末也  
佛本興寺と云寺小属し末也  
しり古殿其地乃末也  
年六月廿日小三好龍前寺元長泉  
列久米城乃末也并し其地乃末也  
て自宮し其地乃末也并し其地乃末也  
けい血痕大坂一礼もくもくしと云

光の院

古殿十八石

永正年中に建三用山心地念上人  
海陽妙光寺乃末也并し其地乃末也  
乃場ちり古殿其地乃末也  
年六月廿日小三好龍前寺元長泉  
列久米城乃末也并し其地乃末也  
て自宮し其地乃末也并し其地乃末也  
けい血痕大坂一礼もくもくしと云

櫛笥寺

又其地乃末也并し其地乃末也  
的應元年小建三用山本位院日津



上人海海堂なる乃ちしち此朱  
平教命たり

在十四ヶ所小天林乃常承寺三村の  
念仏寺と燃く是と十六ヶ所とあり  
是れなり此處家おらして居る者お  
是れなり此處一よりあるに在り  
も八百廿九年

妙國寺

与成百廿石  
由來中教命たのこ

永保五年小建立開山日徳傳也  
建立乃檀主の徳伝常云此のこぬ  
定体乃身をかりて小大樹蔭  
一板わりするこ二間を寸板廻り三間二  
寸柱本丸小十三廿も希代乃徳傳  
聖文天正十年六月小教康云此と伝  
ましくくあるに成所也

聖徳

妙國院殿光徳堂体墓 三每  
又法名龍音寺殿以敬實体上号

小部信徳院

西中教寺  
与成百廿石

開山上人より入世乃新築蓮如上人  
信益院上号と信傳一もり高院と  
建立一別信徳院と号し一乃信  
系傳乃信徳と名せり昔乃中号を  
聖徳大寺なり是今に之乃信徳なり  
名も色も今乃中号の才上二代有如  
上人乃自ら別名もひく此院の衰  
小部判才中く遊しとを此院の  
後すす今乃信堂小安並せり此院  
三百石の田二百廿石の衆列 龍尾村の  
所一上十石の城列山科乃御中く系  
教かち人納所也

在十六ヶ所外是又二ヶ所と入大徳  
寺燈蓮社よりひと十八ヶ所此朱系  
是もてかり

南中坊證徳院

東中教寺

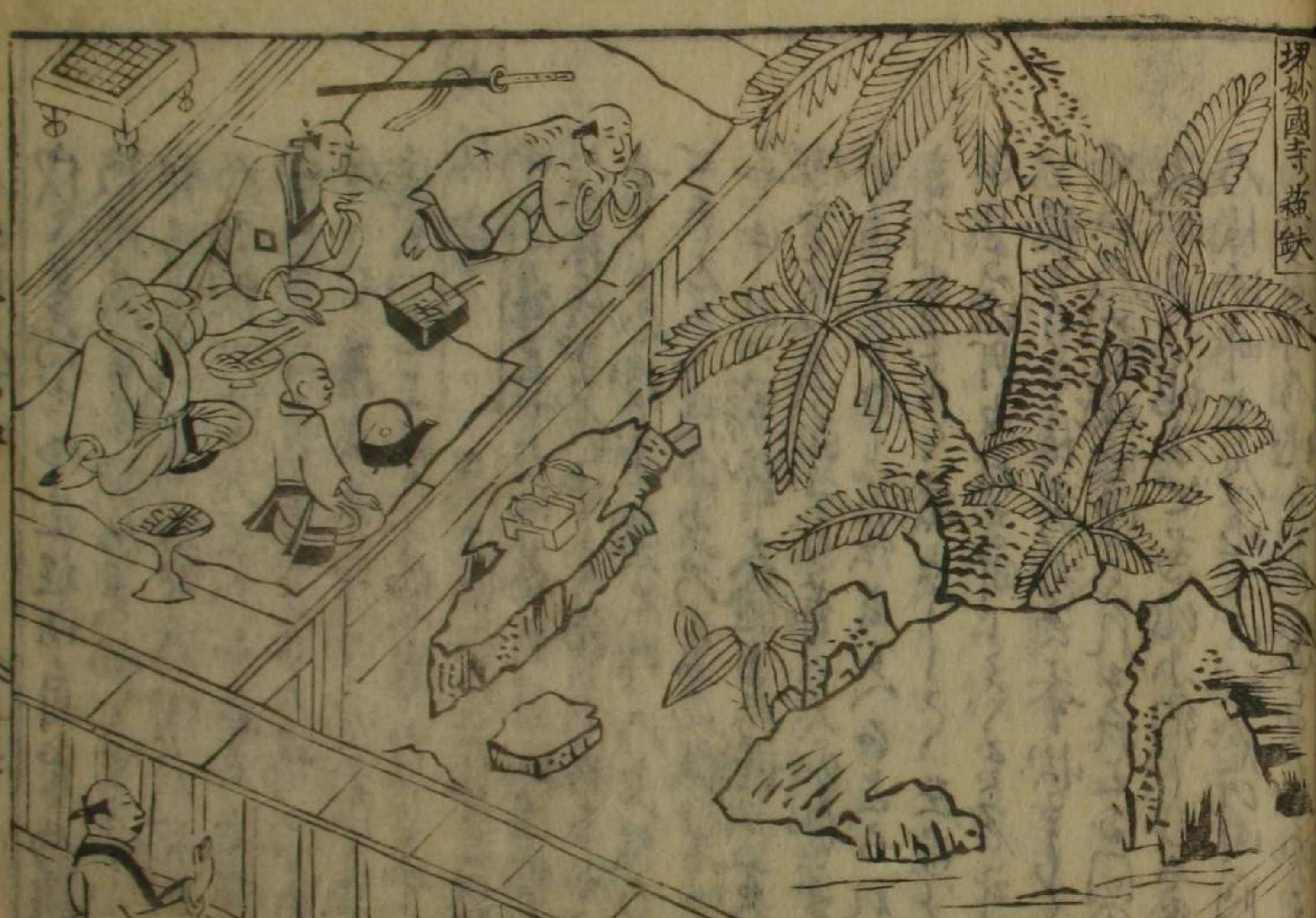
慶長奉申に西然寺二代長傳  
云云開山上人より十一世乃系傳  
上人乃信傳子教如上人 東中教寺  
と信傳一もり是云云家證徳院といふ  
と此興部一上人のみなり左伝系傳乃



乃場とおせり昔乃院号と今おせりて  
用此の如くその大師乃也  
塩完と  
古伝ふ記と勢ふ協へ四  
と終共志く来由と詳なる十一兩  
親者当海中より出現乃院場と  
勢ふとあるありと

尊修と  
永禄元年必云と人  
乃用基たり以上人生産詳り切守  
夫性融明りて耳目乃編る不記  
志く忘れす二代乃業業記守又  
奉慶徳徳乃切是たなり泉列り  
尚境西向と及び徳井村乃古稱と  
号はひと山列り八字流平為院と  
再興一掃津の六坂一心と乃冬  
處と美建一とありありと六十三  
ありと建とと通りありと院法守  
化乃利意之乃住僧外念仏三昧ふ  
入く竟小天云六年十皇又明廿七日  
在の何経と持口ふ念仏誦文一  
撰度合書一素秋八十二歳ありて  
入寂す一心と再興乃切終り一  
道は此の如く

塚妙國寺 蘇鉄





伐くを物せる元祖内自宗乃雅  
波乃名号とあり其幅と云云小  
龍とありありは名号乃謂れ橋列  
乃ち就一心志乃不不志り毎年  
正月廿五日の用とあり徳人小  
中しじ度長年中より大物家  
康云つじ上流小徳人なりと云

少林寺

後醍醐天皇御宇に

中小達立せり用基挑源和為經  
ハ小林氏あり中とく物ハ小林と  
書しハ少林達磨大師乃少林と  
と表志とく後小乃字小波けり  
名中比ハ家野大徳寺乃境双英  
樹院乃末流より首ハ大が盛光  
境内廣りしと伝出スる上られ  
寺門をことく滅女一と云  
ありし地町少林寺町とくを名計  
と記しりし後秀吉公奉状ましく  
て右乃殺林とゆえれと上り門の  
友町より地子と當比小納しじを平  
乃後境町中乃地子内秘教の町同  
くは友町乃地子と當比小納しじを平  
道けり又は境以耕雲店ふつのと  
約指乃右のりし是志と云るせり

紫雲山妙法寺

法陽妙法寺乃

末古用山日英上人あり天正年中  
小僧法師来と中興す又古内小  
日英上人乃自來乃石塔を故小世  
傳小石塔乃ち九よりは上人あり  
弘通乃時海上とく波乃西に慈月  
と書ありは波小ゆと云く痛さす  
と云石塔あり一圓と七小寺あり  
ありと云今は石塔も一基あり  
るのみありと云

慈明山了光寺

用基年代未詳

中古法陽妙法寺乃あり興基一  
分あり今不あり未乃礼と存す是  
小僧とく當りは又云と云す  
山上人乃有鏡乃法教とありは  
善秀法師不附徳とくは不あり  
あり付人五百七代正親町院は新像  
と云依作ありと云都ふなり  
下殿も由辯と云とく上人乃  
一教起信と云書ありあり一教起信



小徳をせりし僧善秀小徳川にて當り  
おとすまひく湯作やうやくせんり  
徳れたいもごかきお死すと歎き上  
人乃内叙お死りし一六或教乃愛中  
お上人より内入一六乃仙像とありと  
見とく愛愛のを聖徳とてくたむ  
一傍仙像と持来して善秀おと人  
来し去ぬ善秀湯作歎き上と  
勅乃恭教意するよりお一六七七年  
經て永保十一年六月廿一日乃りり  
そよ麻乃中乃盛すれりる如  
来の塚乃善秀おとすすと空ん  
大勢智りありとけいおとをえん  
きんそんそ善秀あされ果然深源  
流して忽ち持身志とるたたりた久  
きんそんそく却とく聖喜感歎  
し命小く一かきおれはとくさし  
おと一おとて各為麻へとゆりぬ  
作は仏乃所以の普恵心傍教乃内母  
乃善教のち小徳隨之ると他り同  
千祈乃善教とあきと善の小徳經と  
ろして中乃乃内乃内小とあて當  
麻乃内納りもせりかきとるや善  
徳利生乃まらしくおとる勝斗と  
うすけいもとるの遍忠席ありと  
を善寛文年中小乃免ちと改め  
又か山三十三世乃上人免の山と名  
付りたり

龍峯山祥雲寺

寛永二年小建立

開山伏摩和尚は東聖大徳也乃末  
かり檀那の善氏正安乃志死に座お  
小後徳二十樹依あり大ありれきさ  
き丈八尺小及べり成小氣人の奇況  
とり清吉善成開堂乃羽三日當  
境乃新判史石河去作も勝心使志  
とゆくお文徳とのべ和可一首と紙  
てこれと結らる

自ら房の武蔵庵の雨小若びと麓かき人  
澤野和尚和顔 延奇

徳出和奇後徳法 此字新ち善橋徳  
お基三又中月 花又八室於一室  
々々社に垂香と光とれおとる徳

長谷寺

聖武天皇天平勝寶

年中に造美開山の徳通上人あり



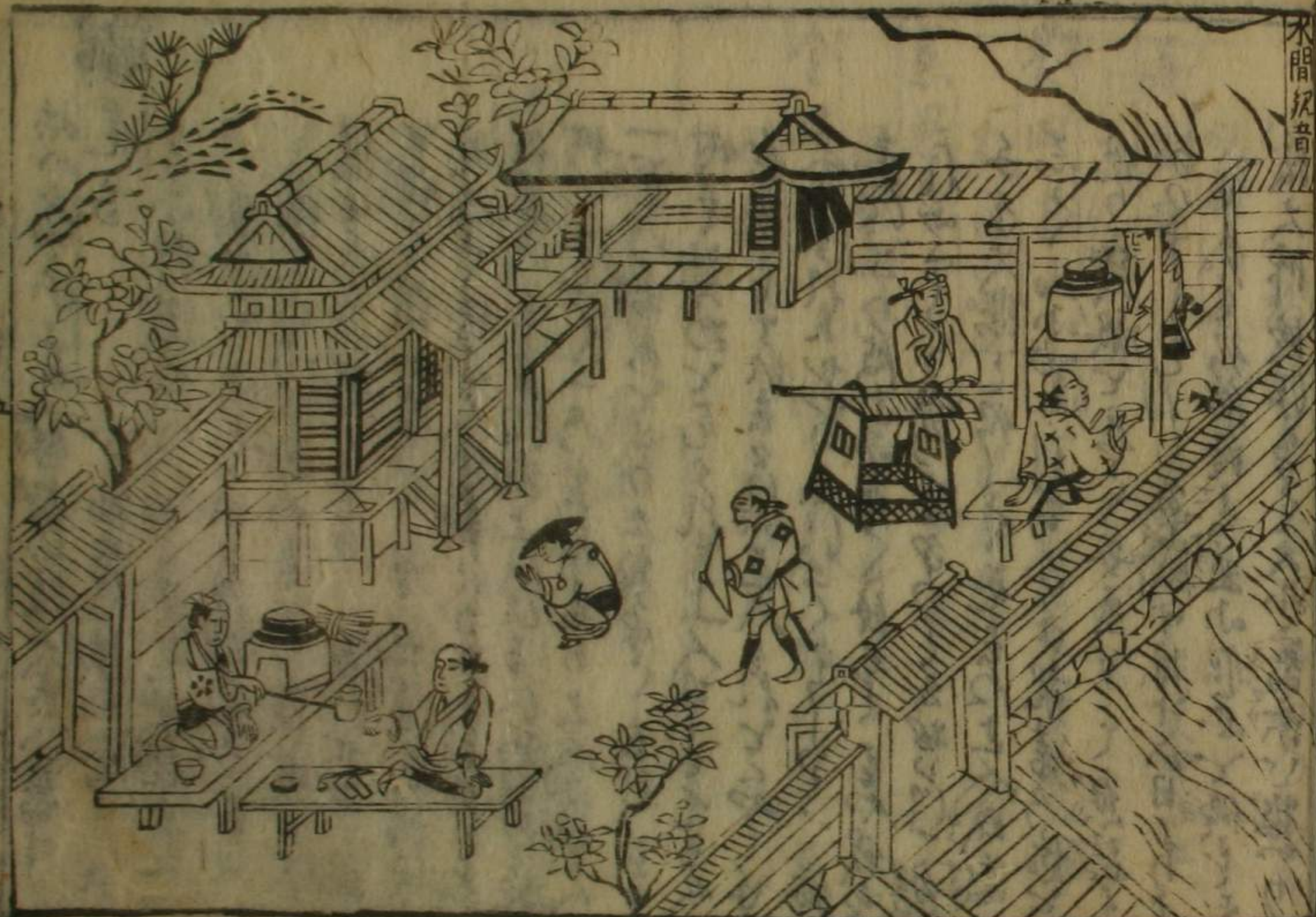




水間寺

聖武天皇乃西行於此

其後用山乃祖とす天皇の西行の二  
月初午乃日乃東皇城乃西行に世  
大士乃其後まゝすことと其後と交  
をせよの別乃基師小命志とこれと  
りありの多り乃基泉別小より  
と云く山洞に入るは十六  
小堂多しは其の別乃西行の  
別乃西行の別乃西行の別乃西行  
てこれと乃基小附と又訪る乃掌  
とこれと切とこれと附とて  
仏法を後乃後とあすゆと  
此より王長合鉄とて梵刹とて  
と云ふ言と安と云ふ一より  
目以てと山乃惠目と云ふ  
小堂り毎年 初午小の男女  
びすははく冥誕ひははく  
像就堂仏舍利殿最勝堂  
堂と云ふ世小まればははく  
中小共次小のまればははく  
也と云ふははく高野山  
東法堂と云ふははく巴法院小



水間

水間

水間







後醍醐天皇乃遣之曰不中ノ旨紙を  
とて之ノ所乃各小寄之候紙と云わたり  
せり

鉄炮

鉄炮乃我朝小始之候り  
其の元正七年小塚より始り  
甲別家より大永六年小塚より始り  
之教(けい)を大り色本様より  
天文八年八月在平久保に於て  
久乃成地赤尾本乃藩へ葡密の  
新来の中へ賣買の始り  
と云ふ始り鉄炮の秘術を  
種子藩兵部少輔三之助  
傳乃位人橋本又三郎  
之書く流布す此鉄炮は  
盛饒あり又大永の始り  
此氏より中法流の  
此の始り也子孫傳へ  
於て精妙なり是より  
上之と云ふ一尺一寸  
三寸と云ふ一尺一寸  
又百目乃大筒也不月  
之鉄炮大筒の始り也

大居所

今紀列乃此城小これ  
候志く余も公方乃  
小加りの始り也  
家あり也大居所と云ふ  
秘く打出の始り也  
其の始り也  
所居之つと云ふ  
乃發見あり也

出雲

出雲下と云ふ  
新島下と云ふ  
乃名入と云ふ  
甲州と云ふ  
教宗と云ふ  
其の始り也

其の始り也  
其の始り也  
其の始り也  
其の始り也  
其の始り也



とありて和泉国とあり

天井前橋

此橋の橋を引合板  
多く髪乃と記さるる部言を抄す  
とありてみづに合とありとあり

御本履

今町乃本履と云  
葉のぬけたる云とす  
雪踏乃ぬけと云

新踏

尻堀と云物と申ゆ  
茶湯乃時露露入乃  
裏小あひさ年と付  
と云と踏と云と云

神松丸

自乃庄神松村乃  
思地より他り出さる  
公方へ献すもり云

鬼煎餅

海と云乃小あひさ  
此煎餅一口と云  
と云と云と云と云

紅葉豆腐

此名ハ堺乃橋綱小  
とありすといふ云  
とありすといふ云

前敷

任吉大前乃社乃  
か乃海邊よりわがり  
云又云此乃美乃美乃

権系

権系乃奥乃口と云  
入一町織人云  
と云と云と云と云

金銀

先和年中乃法座人  
此乃小後り云  
金銀乃織物と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云

課差度

世乃課差度と云  
業入と云と云と云  
と云と云と云と云



みくを後尾列ふより御戸ぬく家  
入と燻又停勢ぬくも燻一をこれ  
乃名ふしりくも燻と名付相平一人  
乃名付りも燻と名付り教教権也  
米陽名物元ぬりく見くも燻又  
名燻と名付り燻と名付り入るを  
と名付り名付りとのり

甫行茶抄

中ノ利休ノ侍史

と古田織物以てとこれと懸露あり  
或時台院殿へは白雲を以て茶茶物と  
款と今の子孫甫行と稱てこれ也

一節詰附

一節詰附

此他乃服の村地服を用ゆ御服の時  
おまじり先祖より今三代おまじり葉之  
出作強

出作強

天正乃此の石屋と名付り源氏也と云  
金芽友共赤物造先祖の元永年中  
小系於小極住す

若具陣西吹

生國宗良良盛也乃

任人申氏と表補のともく利休小使  
く此小使す生國小使のともくやと  
立りて子孫慶勝慶音慶安慶茂

雜談

雜談

生國ハ紀列雜談乃任人表後中在  
云傳小使人乃く高津小使傳て  
廣本細之乃名譽と稱せりまふら  
照京小使伝まふす

加突四郎

慶長年中の刀服

活たり二代ありて業と勢  
焼くゆ香乃くこれ  
かこよりりて後たりは下より焼物と名  
方小使ひく又おまじりこれあり

藤壺燒塔

今乃壺燒塔金先祖

の昔年の夜右節とく死の如く時留  
枝村乃くかり古く後乃未孫と  
とより天文年中小高津漆村小使  
子後居りて紀列より雜談と名付り  
出壺小入と燒塔と名付り

へ高壺

へ高壺

そ子孫お使す兼藤甲午小使伝  
所より天下一乃美譽と名付り又  
是慶七年乃此壺傳傳より折紙状  
より壺名傳傳と号す

外古來

外古來

外古來

外古來

外古來



天川多子紙 大木の葉履 常葉履  
上村巻 尾巻 尾田干筋 貝巻  
義巻 羽田乃波 新田たむき

右和泉國

右和泉國の顯る地小種志く  
著く形小粗く只を世に記さる  
り此とまじく是とゆふ福く  
多かりしひらひらとてはあられ  
とて地然つてそあらはるる  
ふゆす口村とれとあしす  
右此處よりと記さるり

和泉國の顯る地小種志く  
著く形小粗く只を世に記さる  
り此とまじく是とゆふ福く  
多かりしひらひらとてはあられ  
とて地然つてそあらはるる  
ふゆす口村とれとあしす  
右此處よりと記さるり



